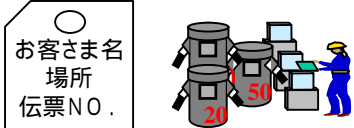
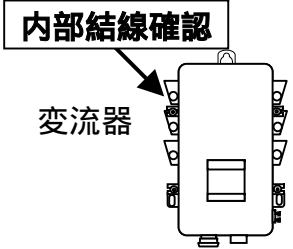


計量装置乗率誤りに関する再発防止対策について

参考2

工程	乗率誤り発生要因	再発防止対策
工事発注	<ul style="list-style-type: none"> ・多種類の変成器・計器が施工現場へ倉出され、誤った資材を選定 (例) 50A変成器に対し20A計器を選定 	<p>全ての倉出資材に対し、「引当先お客さま名を表示」</p>  <p>お客さま札の取付</p> <p>確実な資材の引き当て</p>
現場施工	<ul style="list-style-type: none"> ・変成(流)器容量に対し間違った計器が取付される (例) 50A変成器に対し、20A計器を取付 	<ul style="list-style-type: none"> ・施工後、「表示内容記録票」を作成。(計器、変成器の銘板内容を記録) ・変流器の内部結線を写真撮影 <p>施工結果記録の内容充実</p>
検査	<ul style="list-style-type: none"> ・施工後の変成器容量と計器容量のマッチングの確認が不十分 (例) 変成器50Aと計器20Aが組み合わされる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「表示内容記録票」に基づき、変成器、計器容量をチェック ・「表示内容記録票」と「倉出資材固有データ」を照合 <p>施工結果のチェック強化</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・施工後の内部結線の確認を実施していない (例) 計器取替時に、CT内部端子を誤接続 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真により内部結線を確認 
通知 (設備・料金データへの反映)	<ul style="list-style-type: none"> ・設備、料金データのエラーチェック機能が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械化システムにより、下記のエラーチェックを強化 + 計器と変成器容量の整合性チェック + 設備、料金データの乗率突合せチェック <p>機械化システムによるエラーチェックの強化</p>